

# 働き盛りの若者の自死

## ～既遂例を元に考える～

我が国では、1998（H10）年から14年連続で3万人以上の方が毎年、自死で亡くなっていました。そのような状況を切実に受け止めて社会的なアクションを起こしたのは、大切な家族を亡くした自死遺族とその思いに賛同する民間の活動家でした。それにより2006（H18）年に自殺対策基本法が制定され、2007（H19）年に自殺総合対策大綱が公表されて、国を挙げて自殺対策に取り組み始め、現在では年間自殺者数は約2万1千人となっています。それでもなお1日60人の人が自ら命を絶っています。

実際に自死で亡くなる方とは、どのような人なのでしょう。どのような状況でそれは起きるのでしょうか。自死についてのリアリティは、自死遺族から話を聴くことなしに近づいていくことができません。自死で亡くなる本人も、その遺族も、別世界にいる特別な人ではなく、ごく身近にいる人たちですが、“世間”に圧倒されて声を挙げられずにいます。私たちはその声に耳を傾けて、そこから学ぶ必要があると思うのです。



# 2018.7/9（月）10:40—12:10

- 10:40～11:10 若者の自死の現状について
- 11:10～11:30 自死遺族からの事例提供
- 11:30～12:10 参加者の質問を元にしたディスカッション等

**場所** 京都文教大学弘誓館G104教室

**主催** 京都文教大学 地域協働研究教育センター  
地域志向協働研究「生きづらさを抱えた本人と自死遺族のサポートについての実践的研究」  
（研究代表者:松田美枝【京都文教大学臨床心理学部准教授】）

お申し込み不要・参加無料です。当日直接会場にお越し下さい。  
（駐車できませんので、近鉄向島駅発のスクールバスをご利用ください。  
バスダイヤは10:10、20、30、40発となっております。）

